

急行「はまなす」旅行記

私が小学生の頃、寝台車のあさかぜやあかつき、はやぶさなどは私の本拠地大阪駅でもめったに見ることができず（小学生の私が一人で見に行ける時間帯に走っていないということ）、でも憧れの列車であり、今でも実家にはNゲージの数車両が残っているはずです。その寝台車に乗るなんて、夢のまた夢であり、それは大人になったらいつかは実現できるはずでした。しかし新幹線や飛行機網の発達により、寝台車の存在はどんどん消えつつあり、今在住の北海道と本州を結ぶ北斗星やトワイライトなどの数少ない列車も車両の老朽化という理由で廃止。そして函館まで伸びた新幹線の開通に伴い、青函トンネルを通るすべての寝台車が平成28年3月で廃止になることに。カシオペアには時間的に無理があるので、残りひとつ、急行はまなすに勇気を出して乗る決意を今年の夏ころにしたのです。11月頃の連休に乗ろうかと考えていたのですが、同じようなことを考えている人はたくさんいるようで、寝台車は予約でいっぱいとのこと。半ばあきらめムードだったのですが、12月のこの時期に平日に休みがとれたので、予約状況を見てB寝台に空席を確認後、急遽札幌ー青森往復切符（20060円のこの切符はお得な切符で、はまなすB寝台および特急指定席を利用できる）で往路；はまなすB寝台、復路；スーパー白鳥およびスーパー北斗の座席指定券を購入しました。しかもそれは出発5時間前ほどのことです。仕事を終えて、帰宅。食事、風呂を済ませて、青森の浅虫温泉で使用するであろうタオルや下着の着替え、充電の完了したデジカメ2台、本をかばんに詰め込み9時過ぎに自宅を出発し、最寄りの駅から札幌駅に向かいました。

12月1日（火曜）

21：29 札幌駅到着、4番線に移動し、はまなすの到着を待つ。

21：40 はまなすが小樽方向から到着。駅の中である程度明るいとはいえ写真がうまく撮れないことに気が付く。おじさんに頼まれていた車両番号などを最後部から撮影開始。先頭のディーゼル車まで来ると写真を撮影している人の多さに驚く、平日なのに。そしてその写真撮影している人のほとんどが、はまなすに乗る人たちであることを後で知る。

21：58 22時ちょうどに出発であり、素手で写真を撮っていると寒くなったので、車両に乗り込む。自分の席はB寝台1号車15番下段。けん引しているディーゼル車のすぐ後ろである。向かいの16番の席には私より少し若めの男性。挨拶し、お互い青森までの長丁場を過ごすことになる。

22：05 車掌の放送で理由を言っていたのが聞こえなかったが、5分遅れで札幌駅出発。向かいの方は福島からだそうで、なんと東京→稚内を飛行機で、そのあと特急サロベツで札幌に。彼も夜間の撮影でカメラがぶれるのが気になったようで、札幌駅そばのビックカメラで三脚を買ってきたとのこと。私と同じメーカーのカメラ（LUMIX）を使用しているので、聞くと、なんとパナソニックでカメラ製造の仕事をしているとのこと。カメラ談義で盛り上がるも、やはり話ははまなすや電車のことになる。彼はかなり久しぶりではまなすに乗るとのこと、いろいろ詳しいので教えてもらおう。寝台にはシーツ、掛布団（毛布にシーツがついているもの）、枕、JRのロゴが入った浴衣があり、とりあえず寝る準備はしておく。新札幌、南千歳で若干の人が乗り込んでくる。また写真を撮りに通路を行き来する人が絶えない。トイレに行こうと通路を通り、後ろの出口までの往復で確認すると、下段は4席ほど空きがあり、上段には1名のみが入っているだけ。やはり平日の恩恵を感じた。

23:30 苫小牧、登別を過ぎ、眠くなったのでカーテンを閉めて床に就くも、振動や音で寝るのは厳しい。持ってきた耳栓も効果なし。しかしウトウトしている間に寝たようだ。

12月2日

02:50 ふと目が覚めると振動がない。向かいの彼は、函館に着いたら写真を撮るので、もし私が寝てたら、起こしてくれるとってたのに、起こしてくれてない。おかしいと思ってカーテンを開けると、彼も起きていて、今なぜか大沼駅で停車中と教えてくれる。何も情報がないまましばらくして、車掌の車内放送が入る。寝台車には夜間放送はかけないという決まりごとになっているのだが、断ったうえでの車内放送。大沼ー仁山駅間でレールの破断があり、修理に時間がかかるとのこと。4;20に保線員が大沼から現地に向かい、修理完了が5:00頃になるとのこと。

05:10 2時間以上停車していたが、やっと大沼駅を出発。一路函館へ。

05:45 函館着。自分の乗っている1号車のすぐ後ろでけん引してきた機関車が切り離されるので写真を撮りに車外へ出る。その写真を撮ったのちに、今度進行方向が変わるので一番後ろ(今度は先頭)の7号車に向かおうとしたら(もともと函館では1時間ほどの時間が設定されていた)、ホームでの放送で、「はまなすはすぐに準備ができ次第、発車しますので車外へ出ている人は、すぐに列車にお乗りください」というのではないか。結局先頭部分には行けないので、青森で撮ることにする。

06:00 函館発車。日の出時刻を迎え、だんだん空が明るくなり、木古内方面に向かうに従い景色がきれいに見えだす。函館山も見える。知内あたりから最後部に行き、すでに写真を撮っていた別の乗客の青年と話をしながら、青函トンネルへ。入る前に新幹線と合流し、線路が3本になる。一番内側の新幹線の線路はまだ錆びていてあまり使用している感が少ない。青函トンネルに入るが、湿度が高いせいで、すぐに窓が外から曇る。

08:20 天気の良い中、青森着。函館から雪が全くなく、秋の風情。2時間1分の延着で切符の払い戻しあり、の状況に。到着後、向かいの席の人(彼は新青森まで行き、そこから新幹線)に別れの挨拶をして先頭車両までホームを急ぐ。しかし到着時はすでに切り離されたあと。すぐ隣に新青森行のリゾート列車があり、その写真も撮りつつ、ホームの連絡橋を通り、駅を出る。

ここからは帰りのスーパー白鳥の出発まで、2時間しか時間がないので、ぶらぶら駅周辺を観光。青函連絡船の展示(冬季で営業していないのか、ペンキの塗り替えなどをしていた)や駅前を通り、魚菜センターというところに、知人に教えてもらったのつけ丼なるものを食べに行く。のつけ丼とは1080円(540円のもあり)でチケットを買い、市場内の各お店で売られている刺身などの具材をチケットのクーポンで交換して、ごはんの上に乗せてもらうシステムで、自分の好きな海鮮丼にできるというもの。北海道では食べたことのないようなものもあり、おいしかったです。その後、スターバックスで携帯の充電および若干の時間つぶしでコーヒーを飲んだ後、駅待合構内でお土産を買い、ホームへ。新青森からのスーパー白鳥は、ほぼ時間通りに到着したのだが、奥羽本線の特急との接続待ちとかで8分ほど遅れて発車。車内はガラガラであった。今回の旅行の目的はいくつかあったのだが、その一つに、以前出張で何度も行っていた木古内駅周辺の変化を確認したかったので、

停車時は車内から写真を撮影。江差線も廃止になり、寂れるばかりの町の小さな駅であったのに、立派な新幹線のホームが立ちはだかっていた。再び函館に向かう車窓では、青森では晴れていた空もややかすみがかってきて、でも函館山もきれいに見える。函館ではもともと白鳥から北斗への乗り換えに8分あったはずなのだが、出発が8分遅れたため、スーパー北斗には向かいのホームでの接続なので急いで乗車。切符の予約時にわかっていたことなのだが、スーパー北斗の指定席は満員。しかも座席は1D（窓側）。出入り口のすぐ横なので出入りの人が絶え間なく通り、少し寒く感じるし、横は東南アジア系の外国人、うしろは中国語をはなすカップル、みると車内は外国人だらけ。この時期に観光してくれるのは、地元にはありがたい存在なのだろうが、なんだか咳をしたりマスクをしている人が多く、ちょっと憂鬱な3時間半であった。